

は じ め に

いまの時代、お客様のニーズは細分化し、商品やサービスもどんどん多様化してきています。どのような現場でも、あるいはどんな職種でも、さまざまな場面でちょっとしたアイデアが求められるようになってきています。

しかし一般的には、アイデアの発想力は一部の才能のある人のスキルと考えられがちです。これまでアイデアの生み出し方については、学校の授業でもほとんど教えてはくれませんでした。だから、「自分にアイデアを求められても……」と躊躇してしまうこともあるのではないのでしょうか？

でも、安心してください。実は、アイデアの発想力は才能ではなく、技術です。ちょっとしたコツさえ理解すれば、だれでもアイデアが生み出せるようになります。

本書で使う道具は、主に「ポスト・イット[®] ノート」と「ペン」だけです。手軽にはじめられるだけでなく、「ポスト・イット[®] ノート」の「貼って、はがして、動かせる」という特徴が、アイデア発想に非常に役立つのです。

そこで、本書は「ポストイット[®] ノート発想術」として、アイデアの発想に必要なノウハウをまとめました。アイデアが生まれる流れを理解しながらレッスンできるように構成し、2冊に分冊しています。

第1巻は以下のような構成になっています。

- 1章：アイデアを発想するってどういうこと？
- 2章：アイデアを生み出すために大切なこと
- 3章：アイデアはどうやって生み出すの？
- 4章：フレームワークでアイデアを発想しよう

1章～2章では、まず「アイデアづくり」の概要と考え方を学習します。そもそもアイデアがどういったものかをよく理解していないと、アイデアは生まれません。そのうえで、3章でアイデアをつくる技術を学び、4章ではアイデアづくりに役立つフレームワークを学んでいきます。

大切なことは、アイデアが生まれる構造をしっかりとつかむことです。そして、望ましいアイデアにたどり着くために、本書で学んだノウハウを活かしてどんどんアイデアを生み出していきましょう。

第1章 アイデアを発想するってどういうこと?

| | |
|--|----|
| Lesson 01 ●アイデアってなんで重要なの? | 08 |
| Lesson 02 ●アイデアは「既存の要素」の組み合わせで生まれる | 10 |
| Lesson 03 ●ポスト・イット [®] ノートは「組み合わせマジック」を生み出す | 12 |
| Lesson 04 ●ポスト・イット [®] ノート発想術は誰にでもすぐにはじめられる | 14 |
| Lesson 05 ●アイデアを生み出すのは才能ではなく「技術」である | 16 |
| Lesson Ex ●身の回りのことからアイデアを考えてみよう | 18 |

第2章 アイデアを生み出すために大切なこと

| | |
|---|----|
| Lesson 06 ●「アイデアを生み出せる」と自分に自信をもとう | 22 |
| Lesson 07 ●アイデアを生み出すことを思いきり楽しもう | 24 |
| Lesson 08 ●好奇心はアイデアの原動力、子どもの心をもとう | 26 |
| Lesson 09 ●アイデアを思いついたら勇気をもって人に相談しよう | 28 |
| Lesson 10 ●自分の手を動かしてアイデアを「見える化」しよう | 30 |
| Lesson 11 ●アイデアが叶えてくれる未来の自分をイメージしよう | 32 |
| Lesson 12 ●アイデアを考える際にはとにかく数で勝負しよう | 34 |
| Lesson 13 ●アイデアの素材となる情報を集める力を身につけよう | 36 |
| Lesson Ex ●アイデアを生み出すコツを身につけよう | 38 |

第3章 アイデアはどうやって生み出すの?

| | |
|--------------------------------------|----|
| Lesson 14 ●アイデアを生み出すプロセスを理解しよう | 42 |
| Lesson 15 ●プロセス①：課題を設定する | 44 |
| Lesson 16 ●プロセス②：情報を収集する | 46 |
| Lesson 17 ●プロセス③：アイデアを発想する | 48 |

| | |
|-------------------------------------|----|
| Lesson 18 ● プロセス④：アイデアを検討する | 50 |
| Lesson 19 ● プロセス⑤：アイデアのフィードバック | 52 |
| Lesson Ex ● アイデアを生み出すプロセスをもう一度確認しよう | 54 |

第4章 フレームワークでアイデアを発想しよう

| | |
|---------------------------------------|----|
| Lesson 20 ● フレームワークの活用法を押さえておこう | 58 |
| Lesson 21 ● ユーザーの不満を見つける「不満発想法」 | 60 |
| Lesson 22 ● 逆の視点で考える「逆転発想法」 | 62 |
| Lesson 23 ● 属性で分けて考える「属性列挙法」 | 64 |
| Lesson 24 ● 視野を広げる「マンダラート発想法」 | 66 |
| Lesson 25 ● 遠くから借りてくる「アナロジー発想法」 | 68 |
| Lesson 26 ● チェックリストで問いかける「SCAMPER発想法」 | 70 |
| Lesson 27 ● パラメータを設定する「アイデアボックス発想法」 | 72 |
| Lesson 28 ● 大胆な飛躍をねらう「カラーバス発想法」 | 74 |
| Lesson Ex ● アイデアの発想に役立つフレームワークを使ってみよう | 76 |

第1章

アイデアを発想するって どういうこと？

- 01 アイデアってなんで重要ななの？
- 02 アイデアは「既存の要素」の組み合わせで生まれる
- 03 ポスト・イット[®] ノートは「組み合わせマジック」を生み出す
- 04 ポスト・イット[®] ノート発想術は誰にでもすぐにはじめられる
- 05 アイデアを生み出すのは才能ではなく「技術」である

Ex 身の周りのことからアイデアを考えてみよう

Lesson

01

アイデアってなんで重要ななの？

「仕事ができる」ためには、発想力（アイデア）が欠かせません。
それは、クリエイティブ職だけではなく
すべての職種に共通しているテーマです。
そして、発想力はちょっとした努力や工夫で養えるのです。

上司のアイデアで商談成立

発想力は「仕事ができる人」になるために大切な要素です。そのように言うと、「自分にはないかも……」と思うかもしれません。そこで、あるエピソードを紹介しましょう。

AさんはOA機器の製造メーカーに勤務する営業です。頑張り屋のAさんの努力が実り、とあるリース会社と新規の取り引きの話が進んでいました。しかし、契約まであと一歩というところで、なかなか商談がまとまりません。悩んだAさんが上司に相談したところ、その上司は「リース会社の先にいるエンドユーザーの話を聞いてみたら？」というアドバイスをしてくれたそうです。それまで自社製品のよさのアピールに力を入れていたAさんですが、「なるほど、その手があったか」と思わず納得。早速、実際に自社製品を使用している方々の意見を聞いてまとめたところ、より説得力のある資料を作成することができました。その資料のおかげで、その後はスムーズに契約までこぎつけたということです。

あらゆる職種に必要な発想力

発想力というと、コピーライターやデザイナーなどの、いわゆるクリエイティブ職に関わる人たちに求められるものと思いがち。でも、実際はそうではありません。営業職であるAさんの例からもわかるように、発想力はあらゆる職種に求められます。

職場で「この人は仕事ができる！」と思った瞬間を思い浮かべてみてください。そのなかにはきっと、「なるほど、そんな方法があるのかな……」と自分には思いもつかなかったようなアイデアに関する出来事があったのではないのでしょうか。Aさんのエピソードは商談をまとめた成功例ですが、優れた発想で生み出したアイデアは、さまざまなビジネスシーンで役立つものです。

企画会議などの直接的に創造性が求められる状況はもちろん、クレーム対応には別の角度からのアプローチの言葉が顧客を納得させることも少なくありませんし、机の上に山積みになった書類も、アイデアを活かして整理方法を工夫すると効率的に仕事を進めることができます。

ちょっとした工夫でアイデアを生み出す能力を高める

豊かな発想力が役立つのはビジネスの場面だけではありません。車の修理、子どものしつけ方、貯金を増やすための節約術……。普段の暮らしもちょっとしたアイデアで、効率や効果をアップさせることができます。そうはいつても、「確かに発想力は大切だと思うけど、私はいたって平凡な人間だし、ちょっと自信がないな……」という方も少なくないでしょう。

でも、ご安心ください。アイデアを生み出す能力は、「100mを9秒台で走る」というような、ほんの一部の人に与えられた特別な能力ではありません。アメリカのクリエイティブ・ディレクター、ジャック・フォスター*は、著書のなかで次のように語っています。

「わたしは一緒に仕事をしてきたアイデアを呼ぶ男たちが、特殊なアイデア生産能力を生まれつきもっていたとは思わない……」。

本講座で紹介する発想術はきわめてシンプルです。使用するアイテムといえば、ポスト・イット® ノートと普段から使用している筆記用具くらい。ちょっとした努力や工夫で、誰もがアイデアを生み出すことができるようになるのです。

*ジャック・フォスター

アメリカの大手広告代理店でサンキスト、マツダ、ユニバーサルスタジオなど多数のメジャー企業の広告を担当。いくつもの広告賞を受賞した、クリエイティブ・ディレクター。

CHECK POINT

- 発想力はどのような職種にも求められる
- 発想力は日常生活にも役立つ
- 誰もがちょっとした努力や工夫でアイデアマンになれる

Lesson 02

アイデアは「既存の要素」の 組み合わせで生まれる

アイデアは無の状態から突然生まれるのではなく、
既存の要素を組み合わせた結果です。
この事実を理解することが、
「アイデアマン」への第一歩となります。

便利なツールは組み合わせによって生まれた

アイデアはどのようにして生まれるのでしょうか？

アイデアのベースとなるもの（もしくはちょっとした思いつき）を「アイデアの卵」と表現したりすることから、もしかしたらニワトリがポンッと卵を産むように、「アイデアはなにもないところから生まれる」と思っている人も多いかもしれません。

でも、それは間違いです。実は、アイデアは今あるものの「組み合わせ」によって生み出されるものなのです。

実際の例を見てみましょう。本講座ではポスト・イット® ノートを使いますが、その誕生秘話を紹介します。

この始まりは1968年。ポスト・イット® ノートの販売元である3M社・中央研究所の研究者、スペンサー・シルバーは、「よくつくけれど、簡単にはがれてしまう」という、なんとも奇妙な接着剤を開発しました。接着剤としては失敗作でしたが、シルバーは「これはなにか有効に使えるに違いない」と直感。社内のあらゆる部門の人たちに見本を配り、「使いみちはないだろうか」、「新しい用途開発ができないだろうか」と、その発見を紹介してまわりました。

コマーシャルテープ製品事業部の研究員、アート・フライもその対象の一人でした。その時点では、特別に関心を持ったわけではありませんでしたが、フライの記憶にはしっかりとその接着剤のことが焼きつけられていたようです。

時は経ち、1974年のある日曜日。教会の聖歌隊のメンバーであったフライは、いつものように讚美歌集のページをめくりました。すると目に挟んでいたしおりがひらりと滑り落ちてしまいました。

「またか……」と思った瞬間、フライの頭のなかに閃くものがあったのです。「これに、あの接着剤を使えばいいんだ」。

5年前にシルバーが作り出した奇妙な接着剤の用途が、このとき、初めて具体的なイメージとなったのです。翌日から、フライは「ノリのついたしおり」の開発に取りかかりました……。

身の回りはアイデアの「組み合わせ」だらけ

いかがでしょうか？ 今やビジネスシーンで大活躍のポスト・イット[®]ノートも、「特殊なノリ」と「しおり」という組み合わせによって生まれたものなのです。

このような「組み合わせ」によるアイデア商品は、私たちの身の回りでいくつも発見することができます。

たとえば、街でよく見かける「回転寿司」もそうです。これは、大阪の立ち喰い寿司店の経営者が、ビール製造のベルトコンベアをヒントに、多数の客の注文を低コストで効率的にさばくことを目的として発明されました。「寿司」+「ベルトコンベア」=「回転寿司」というわけです。

その他、身近なところと言えば、「携帯電話」+「パソコン機能」=「スマートフォン」、「洗濯機」+「乾燥機」=「洗濯乾燥機」、「ヒーター」+「布地」=「ホットカーペット」、「シャーペン」+「ボールペン」=「多機能筆記具」など、ちょっと見渡しただけでもいくつもあげられます。

このように、時代の流れの中でさまざまなアイデア商品が生み出されてきましたが、アイデアの基本は既存の要素の組み合わせであり、「まったく新しい」ではなく、「少し新しい」ということなのです。

このことに気がついていない人は「アイデアを生み出すのは難しい」と考えてしまいます。そのような思い込みは捨ててしましましょう。

そうです、誰もがアイデアマンになることはできるのです。

CHECK POINT

- アイデアは「無の状態」から生まれるのではない
- アイデアは「既存の要素」の組み合わせで生まれる
- 身の回りには「組み合わせた」アイデアがあふれている

Lesson 03

ポスト・イット® ノートは 「組み合わせマジック」を生み出す

ポスト・イット® ノートほど
アイデアを生み出すのに適したツールはありません。
「貼って、はがして、動かせる」という特徴は
アイデアの基本である「組み合わせ」に大いに役立ちます。

ポスト・イット® ノートを発想術に使おう

本講座は発想術を身につけるためのもので、そのためのツールとして
ポスト・イット® ノートを使います。

ポスト・イット® ノートは、リーズナブルな価格で手に入れることが
でき、あとはペンを用意するだけで、誰でも簡単に始められる発想術です。

たとえば、あなたが手帳やパソコンなどに「今週のやるべきこと」を記
入しようとしたら、まずは「間違えないように」、「頭の中で情報を整理
しよう」と構えてしまいがちではないでしょうか。

でもポスト・イット® ノートなら、ただ思いついたことを書くだけ
です。整理は後ですればいいし、間違えれば、捨てればいいので、気軽に
いつでもどこでも発想できるというメリットがあります。

簡単に貼って、はがして、動かして、アイデアを整理

ポスト・イット® ノートの最大の特徴の1つは、簡単に「貼って、はが
して、動かせる」ということです。ポスト・イット® ノート発想術では、
この「動かす」ということが重要になります。

ポスト・イット® ノートにさまざまなアイデアを書き出すことによっ
て、頭の中をいったん「見える化」し、それを「動かす」ことで情報が整理
され、「新たな気づき」が得られるからです。

迷ったら何度でもはがして、何度でも貼り直せるので、情報を比較検

討したり、優先順位を考えたり、グルーピングすることができます。つまり、「組み合わせる」シミュレーションが簡単にできるのです。

「動かし方」にルールはない

たとえば、あなたが「今やるべきこと」を考えているとします。

やるべきことがたくさんあり、なにから手をつけていいのかわからず、どんどん余裕がなくなっている……。そんな時はポスト・イット[®] ノート発想術が最適です。

「〇〇の作業をする」、「〇〇氏と打合せ」、「〇〇社に返信メール」、「ライブに行きたい」、「デートの約束」、「飲み会の予約」など、気がついたことはどんどんポスト・イット[®] ノートに書き出していきます。仕事のこと、趣味や遊びのこと、恋愛のこと、重要度やテーマや抽象度も一切関係なく、とにかく思いつく限り書き出します。そうすることで、頭の中の状態を客観的に「見える化」していくのです。

次に、書き出した内容を見て、ポスト・イット[®] ノートを動かしグループ分けしてみます。「動かし方」にルールはありません。たとえば、「やるべきでやりたいこと」は右に貼り直してみる。「やるべきだけどやりたくないこと」は左に貼り出してみる。「やるべきではないこと」ははがしてしまう。あるいは「仕事系」、「家族系」、「友人系」のカテゴリーに分けてもう一度考えてみるなど、いろいろ「動かし、組み合わせる」ことによって、それまで見えなかった自分の気持ちの強さや重要度に気づいて考えがまとまっていきます。

そして何度もシミュレーションしていく中で、全体を俯瞰しながら、物事の優先順位や適切なタイミングなどがわかってくるのです。

このように「気づき」が重なってくると、次に何をすればいいのかも自然にわかってきます。それによって、それまでなんとなくモヤモヤしていた頭の中が「動かす」ことでスッキリするのです。これこそが「組み合わせマジック」を生むコツであり、ポスト・イット[®] ノートが発想術に最適であることの最大の理由といえます。

CHECK POINT

- ポスト・イット[®] ノートは発想術に最適なツールである
- 「貼って、はがして、動かせる」という機能が発想術に役立つ
- 「動かし方」にルールはない